

座標軸

設備投資を継続

▽：トラスコ中山の2020年1～6月期決算は、新型コロナウイルス感染症の影響が軽微にとどまった。社長の中山哲也さんは「問屋としてあるべき姿を突き詰めてきた成果だ」と胸を張る。

▽：物流施設の増強



中山さん

など、少量多品種・高頻度の商品ニーズに対応するための設備投資を継続。結果、コロナ禍でも「大きく困ることはなかった」と振り返る。

▽：7～12月期も、新型コロナウイルスの収束が不透明な状況は続くが、「この方針を続けることで、どんな時代でも困らない会社になると力強く語る。